

## 離島で初めての地区大会

大会委員長 嵩 則雄 (福江RC)

今秋11月23日、24日の2日間にわたり第274地区大会が、福江市で開催されることになりました。

開催地である福江市は、九州の最西端に位置する、西海国立公園五島列島の五つの主島のうち、最南端にある長崎港より100kmの、五島灘を隔てた福江島の首都で、人口3万人の小都市であります。

昭和37年9月の福江大火により、街の中心部のほとんどが灰燼に帰し、その後区画整理事業により、城下町の様相を、近代市街に一変しました。

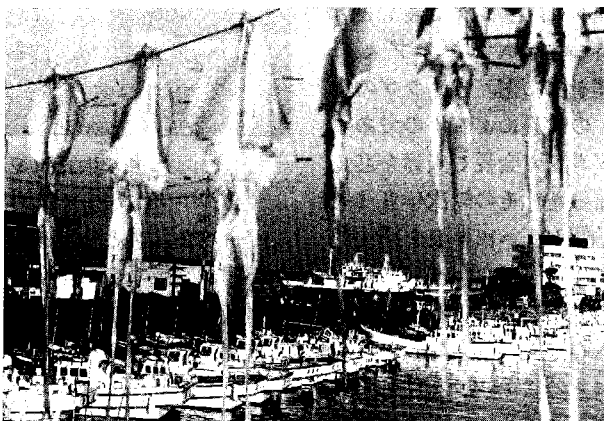
昨年6月近代装備を誇る文化会館も完成し地区大会場として準備されております。

福江島は、黒潮や大陸からの季節風により東支那海の荒波を受けて、みごとな海蝕崖がつらなり、特に大瀬崎断崖は有名であります。

また古代、中世、近世の史跡が豊富であり、縄文、弥生時代の遺跡の出土品のなかには、大陸系の石器も発見されています。

中国渡航の要衝の地として、遣唐使船の大陸渡航への風待ちの地として利用された遺跡もあり、あるいは倭寇の根拠地、キリシタン伝道など特質的な多くの歴史、文化遺産に恵まれて、歴史的な舞台となった五島は、恵まれた自然と、歴史的な文明が調和しながら育って参りました。

また本土と福江市を結ぶ交通機関としては、空路は、長崎空港間に、1日4便、所要時間30分、福岡空港間に、1日3便、所要時間50分が



就航しています。

海路は、長崎港間に、フェリーが3便、所要時間3時間半で就航しております。

島内はバスが運行し、沿岸からは渡海船が各線に就航しております。

簡単に福江市の概略を紹介しましたが、地区大会開催に

は、交通、宿泊、観光等々、離島での大会開催には、いろいろな難関が横たわっております。都会型の豪華さは望むべくもありませんが、考えようによっては、簡素で地味な装いのなかに意義ある、真に心と心の触れ合いの場として、友情と親睦を深め、奉仕の理念を探究し、これでこそロータリアンの集いだと自負できる大会でありたいと念願しています。

離島型の地区大会は、かくあるべしと一石を投ずるつもりで、誠心、誠意、ホスト、コ・ホストクラブ会員一丸となって準備に取り組んでおります。

野田ガバナーノミニーのご指導を受けながら数多くのご婦人ご同伴を予定して、レディス・プログラムの充実につとめ、ミニ観光に、エキスカーションに、地区の特性をいかに活かすか目下研究中であります。

本場五島灘特産の活魚料理に、参加の皆さんには存分に賞味していただきたいと思っております。

地区内外からの多数の会員ならびにご家族のご参加をお願いします。